

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：2007～2010

課題番号：19592570

研究課題名（和文） 精神障害者の自尊感情回復プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of recovery program of self-esteem with psychiatric illness persons

研究代表者

國方 弘子（KUNIKATA HIROKO）

香川県立保健医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：60336906

研究代表者の専門分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護学

キーワード：精神障害者、自尊感情、在宅生活、認知行動看護療法

## 1. 研究計画の概要

本研究課題の目的は、精神障害者の在宅生活が維持・促進できることをねらいとし、精神障害者の自尊感情回復モデルを構築し、自尊感情の回復をめざした臨床プログラムを開発することである。具体的には、精神障害者自身が社会に向けて自分自身を語ることは、彼らの自尊感情の回復に繋がることに着目し、社会に向けて自分の病気体験を語っている精神障害者当事者グループと協働して、(1)自己概念の構成要素の明確化、(2)自尊感情が低下した時の心身と行動の構造の明確化、(3)以上で得た結果を基に自尊感情回復プログラムを開発する。

## 2. 研究の進捗状況

(1)2007 年度は、精神障害者当事者グループ「スピーカーズ・ビューロー岡山」に所属する有志 22 名を対象に、修正版 **Grounded theory approach** を用いて、精神障害者の自尊感情の構成要素を明確にした。結果、彼らの自己概念は欲求を通して意識された自己であり、『階層からなる欲求をもつ自分』を獲得した《獲得したものをもつ自分》と、『階層からなる欲求をもつ自分』を獲得できない《環境の影響を非常に大きく受ける自分》により構成された。

(2)2008～2009 年度は、2007 年度と同様な研究方法を用い、同様のメンバーで、精神障害者の自尊感情が低い時の様子を抽出し、構造化した。結果、彼らの自尊感情が低下する状況が生じた時、《否定的な自己像》が活性化し、それにより否定的な《バランスを失った思考》が次々に引き出され、それらの思考が頭の中をグルグル回り、《追い詰められた不

快な気分》、《不快な身体現象》、自己内外に対し《攻撃または守りとしての行動》が生じ、彼らはその悪循環に巻き込まれていた。悪環境は自己に対する強いこだわりの思いから生じると解釈できた。

(3)2009 年度は、2007 年度に明らかになった自己概念と 2008～2009 年度に明らかになった悪循環を基に、自尊感情が低い時の悪循環から脱出する看護支援として、《否定的な自己像》を認識する、スキーマの修正、リラクゼーション活動、肯定的自己評価を意識化できるなどの必要性が示唆された。そこで、14 回で構成する「自尊心回復をめざすグループ認知行動看護療法」を構築した。具体的な内容は①心理教育②認知の再構成③スキーマの再構成④行動療法で構成する。また、毎回、可能性への挑戦、承認を得る、フィードバックと要約、ホームワークの提示と確認、呼吸法や笑いやレクリエーションのリラクゼーションを行うこととする。

## 3. 現在までの達成度

本研究課題の当初研究目的の達成度は、おおむね順調に進展している。

## 4. 今後の研究の推進方策

今後は、仮に構築した「自尊心回復をめざすグループ認知行動看護療法」が実践的に使用可能であるかについて検証しながら、有用な臨床プログラムに仕上げる。(1)対象を介入群とコントロール群に分け、介入群には「自尊心回復をめざすグループ認知行動看護療法」を実施する。(2)データ収集は介入群に対し、介入前・介入終了後・介入終了 3 カ月後に、自尊心・気分・心の健康度・精神症状を

調査する。非介入群に対しても同様な時期に同様な調査を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 國方弘子、統合失調症者のself-esteemに関する研究の動向-self-esteemの先行要因と帰結を中心に、日本精神保健看護学会誌、18(1)、80-86、2009、査読有
- ② 國方弘子、本田圭子、病気体験を社会に語る精神障害者当事者グループの自己概念、日本看護研究学会雑誌、32(2)、45-53、2009、査読有
- ③ 國方弘子、中山朝子、本田政憲、本田圭子、川口郁代、デンマークの精神保健医療福祉と日本における精神看護実践の課題と展望、香川県立保健医療大学雑誌、第1巻、55-64、2010、査読有

[学会発表] (計 3 件)

- ① Hiroko Kunikata、A comparison of the quality of life scores in families participating in mental illness family self-help programs and the general population、The 1<sup>st</sup> KOREA-JAPAN joint conference on community health nursing、2007年11月23日、Seoul Women's Plaza
- ② 國方弘子、スピーカーズ・ビューローとして活動している精神障害者の自己概念、第67回日本公衆衛生学会総会、2008年11月6日
- ③ 國方弘子、北欧の精神医療と福祉、精神医療福祉フォーラム、2009年3月29日、岡山県ボランティア・NPO活動支援センター

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]